

第1部

ビゼー：オペラ「カルメン」より「闘牛士の歌」

J.シュトラウスⅡ：ポルカ「観光列車」op.281

ワルトイフェル：ワルツ「女学生」op.191

レハール：オペレッタ「微笑みの国」から
“君はわが心のすべて”（テノール：与儀 巧）

J.シュトラウスⅡ：アンネン・ポルカop.117

レハール：オペレッタ「メリー・ウィドウ」から
“ヴィリアの歌”（ソプラノ：湯浅桃子）

ニコライ：オペレッタ「ウィンザーの陽気な女房たち」から序曲

第2部

J.シュトラウスⅡ：オペレッタ「こうもり」から序曲

トランスラトイル：ワルツ「美しきウィーンのプラター」

モンティ：チャルダッシュ

レハール：ワルツ「金と銀」

J.シュトラウスⅡ：チクタク・ポルカop.365

カールマン：オペレッタ「チャルダッシュの女王」から“覚えているかい”
（ソプラノ：湯浅桃子、テノール：与儀 巧）

J.シュトラウスⅡ：ワルツ「美しく青きドナウ」op.314



浮ヶ谷孝夫（指揮） Takao UKIGAYA, Conductor

1953年埼玉県川口市生まれ。世界の最前線でタクトを振る日本を代表する指揮者の一人。1978年に渡独してベルリン芸術大学指揮科のヘルベルト・アーレンドルフ教授に師事。カラヤン、ハンガリー、両国際指揮コンクールで受賞。1986年にはボメラニアン・フィル（ポーランド）のドイツ演奏旅行の指揮者に抜擢され、欧州でデビューを果たした。1987年より、同オーケストラの専属指揮者に就任。多数のドイツ演奏旅行やCD録音で高い評価を得ている。1989年より「ハノーファー北ドイツ放送フィルハーモニー管弦楽団」と多数のCD録音。「ポーランド国立放送交響楽団」の専属客演指揮者。1996年に「ドイツ・フィルハーモニア・フンガリカ」日本ツアー。1999年に「北西ドイツ・フィルハーモニー」日本ツアー。2001年、2005年、2019年、「ブランデンブルグ国立管弦楽団フランクフルト」と日本ツアー。2003年には同楽団の首席客演指揮者に就任。2010年より愛知県豊橋市の「豊橋青少年オーケストラキャンプ」を立上げ、毎年多くの演奏家の育成に尽力。2013年より東京都主催「歴史的建造物保全プロジェクト・マエストロ浮ヶ谷プロデュース・コンサート」を担当。N響、新日フィル、日フィル、東フィル、名フィル、東京シティ・フィル、東京ニューシティ管、日本センチュリー響などと共演。多くのファンを持つ指揮者。2019年8月に東京21世紀管弦楽団の音楽監督に就任。ドイツ在住。



湯浅桃子（ソプラノ）

Momoko YUASA, Soprano

東京藝術大学卒業。同大学大学院修了。二期会オペラ研修所マスタークラスを最優秀にて修了。文化庁在外派遣研修員としてボストンで研鑽を積み、オペラ・デル・ウェスト（ボストン）『愛の妙薬』アディーナに抜擢される。国内では、小澤征爾指揮『タンホイザー』、二期会『チャルダッシュの女王』シュタージ、『天国と地獄』ユーリディス、『フィデリオ』マルツェリーネ、日生劇場『後宮からの逃走』ブロンデ等を好演する他、「ディズニー・オン・クラシック」ヴォーカリスト等でも活躍。日本音楽コンクール第三位。ピーター・エルヴィンス・コンクール第二位等受賞歴多数。二期会会員



与儀 巧（テノール）

Takumi YOGI, Tenor

国立音楽大学卒業。同大学院修了後、ボローニャで研鑽を積む。これまでに、二期会『オテロ』ロデリーゴ、『イドメネオ』タイトルロール、びわ湖ホール『リゴレット』『ラインの黄金』、NHK交響楽団『サロメ』（コンサート形式）等出演。21年には、東京芸術劇場シアターオペラ『夕鶴』にて与ひょうを演じ、いずれも絶賛を博す。コンサートでも「第九」をはじめ、パッハ「カンタータ」、モーツァルト「レクイエム」等の宗教曲もレパートリーとし、のびやかで輝かしい美声と安定した歌唱で好評を博している。第6回東京音楽コンクール第1位及び聴衆賞など受賞歴多数。国立音楽大学非常勤講師。二期会会員

東京21世紀管弦楽団 Tokyo 21c Philharmonic

音楽を通して、多くの人達と手を携え、今までの固定観念にとらわれない新しい時代の「楽しいオーケストラ」を目指して演奏活動を進めて行くプロフェッショナルなオーケストラとして2019年に設立。浮ヶ谷孝夫（ブランデンブルグ国立管弦楽団フランクフルト首席客演指揮者）を音楽監督に迎え、定期演奏会では、ベートーヴェン、ブラームス、ブルックナー、シューベルトといった重厚なドイツ音楽で圧倒的な成功を収めている。また、青少年のための音楽鑑賞会の依頼公演に出演するほか、教育的活動にも積極的に参加し、多彩で幅広い音楽活動を展開している。クラシック音楽を広く普及させる自主公演、定期公演は東京芸術劇場を拠点とし、紀尾井ホール、サントリーホール、東京オペラシティコンサート

ホールなど都内の主要なホールで活動をしている。2019年オスカー新人賞を受賞したテノールのステファン・ポップ、オペラ界のビッグスター、ファン・ディエゴ・フロレス、ヴィットリオ・グリゴロとの共演では好評を博した。2021年、オペラシティにて行われたベートーヴェン「第九」は、満席の聴衆を魅了し大成功を収めた。2022年第18回ショパン国際コンクール第3位入賞のマルティン・ガルシア・ガルシアとの協奏曲の夕べを展開するなど、積極的に若いアーティストとの共演の機会を作っている。このほかミュージカル、バレエ、ポップスにも出演するなど活動の場を広げている。